平成２９年度
北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業に係る
点検・評価報告書（案）

北海道農政部農村振興局農村設計課

Ⅰ　点検・評価について

１　点検・評価の対象地区

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業の地域活動支援事業の実施地区のうち、平成２９年度に事業を完了した湧別町湧別地区

２　点検・評価の方法

毎年度事業実施地区を訪問し、事業の進捗状況の確認や関係者へのアドバイスを行っている北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会委員からの意見や、活動団体、関係町村及び（総合）振興局を対象としたアンケート調査結果を基に、道が評価。

３　北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会委員

所　　属	職　名	氏　　名	備　考
NPO 法人北海道食の自給ネットワーク	事務局長	大熊　久美子	
フードライター		小西　由稀	
北海道大学大学院農学研究院	准教授	小林　国之	
北海道土地改良事業団体連合会	常務理事	本間　勤	
北海道大学大学院農学研究院	講師	山本　忠男	座長

（氏名五十音順）

Ⅱ　湧別町湧別地区に係る評価について

本地区の湧別町は、平成21年、上湧別町と湧別町が合併し誕生した。地名はアイヌ語でチョウザメを意味する「ユペ」または、温泉の川を意味する「ユーベツ」に由来するといわれている。オホーツク総合振興局管内の中央部、北見峠を水源とした湧別川の下流部に位置した、面積506㎢、人口9,203人、世帯数4,153戸（平成29年1月1日現在・住民基本台帳）の町である。東部にサロマ湖を有し、東は佐呂間町、西は紋別市、南は遠軽町に隣接し、北はオホーツク海に面している。

気候は、オホーツク海型気象地帯としての特色をなし、降水量は年間715.5㎜、平均気温は5.8℃となっており、北海道内においても少雨地域で、冬季の降雪量も少ない。

湧別町の東部に位置する旧湧別町エリアは、オホーツク海やサロマ湖に接しており、ホタテ・しまえびといった魚介類の水揚げが盛んであるほか、湧別川沿いの地域では、タマネギ・小麦畑作物が栽培され、南部の芭露地域などの山間丘陵部においては酪農畜産が営まれるなど、多様な一次産業が展開されている。

この地区の６名の酪農家の女性たちが、食品が廃棄されている現状を目の当たりにし、自らが生産した農畜産物をおいしく食べてほしいという思いから、平成12年「楽酪楽食会」を設立し、地場産食材の有効活用を目的にレシピの試作などの活動を行ってきた。平成25年には、同年設立したＪＡゆうべつ町女性部マルシェ部会に引き継がれ、現在に至っている。

町の贈答品は海産物のみであり、農畜産物の特産品がないことから、マルシェ部会は、発足当初から町の主要産品である牛乳に着目し、平成25年、町内のアサヒ食品工業株式会社の協力を得て、「牛乳練りうどん」の開発に着手した。

平成26年、乾麺及びプレーンとかぼちゃ入りの２種類の半生麺を製品化し、「牛乳うどん」という商品名で、Ａコープゆうべつ、ハマナスクラブゆうべつ芭露店にて常時販売を開始した。

マルシェ部会の構成員は、事務局となっている農協の職員以外、全て女性酪農家であり、地域ブランド商品の開発についてのノウハウを有していなかったことから、先進地の事例や専門家の意見等を得て今後の活動の方向性を決定し、活動を通じて開発した商品が長く愛される地域ブランドとなり、食を通じて地域が活性化することを目的に本事業を実施することとした。

（２）　活動の推移

活動事項	年度	活動状況
1　ＰＲ事業	27	・サロマ湖 100 ㎞ウルトラマラソン前夜祭ＰＲ・販売（６月）参加者数：10 名 ・駒大苫小牧高校（湧別町で合宿）への牛乳うどん贈呈（８月）参加者数：５名 ・コープさっぽろうどん試食会（９月）参加者数：30 名 ・成人式にて牛乳うどん提供（１月）参加者数：４名
	28	・のぼり 10 枚・法被 10 着作成（６月） ・サロマ湖 100 ㎞ウルトラマラソン前夜祭ＰＲ・販売（６月）参加者数：10 名 ・ＪＡゆうべつ町ふれ合い祭りでのＰＲ・販売（８月）参加者数：４名 ・ＥＳＴＡ（札幌市）でのＰＲ・販売（８月）参加者数：４名 ・湧別町産業まつりでのＰＲ・販売（９月）参加者数：５名 ・ＪＡゆうべつ町収穫祭でのＰＲ・販売（10 月）参加者数：３名 ・成人式にて牛乳うどん提供（１月）参加者数：６名
	29	・サロマ湖 100 ㎞ウルトラマラソン前夜祭ＰＲ・販売（７月）参加者数：５名 ・ＪＡゆうべつ町ふれ合い祭りでのＰＲ・販売（８月）参加者数：４名 ・おこっぺ街中マルシェでのＰＲ・販売（９月）参加者数：３名 ・ＪＡゆうべつ町収穫祭でのＰＲ・販売（９月）参加者数：４名 ・湧別町産業まつりでのＰＲ・販売（９月）参加者数：５名 ・成人式にて牛乳うどん提供（１月）参加者数：６名 ・パンフレットの作成（３月）5,000 部
2　研修事業	27	・先進地視察・意見交換会（興部町食を考える協議会）（10 月）参加者数：８名
	28	・先進地視察・意見交換会（ＪＡ中札内村）（７月）参加者数：６名

	29	・先進地視察・意見交換会（雄武町（株）神門・ブルーグラスファーム）（10 月）参加者数：13 名
3　食育事業	27	・北海道放送「あぐり王国北海道」料理提供（９月）参加者数：６名 ・うどんづくり（湧別町立芭露小学校）（２月）参加者数：児童 29 名・先生８名、部会員７名 ・試食体験活動（湧別オホーツク園・湖水の杜）（３月）参加者数：入居者 60 名・30 名、施設職員 20 名・10 名、部会員５名
	28	・うどんづくり（湧別町立芭露小学校）（２月）参加者数：児童 28 名・先生９名、部会員９名
	29	・エプロン・三角巾・ポロシャツ作成（８月） ・うどんづくり（湧別町立芭露小学校）（２月）参加者数：児童 27 名・先生 10 名）
4　商品開発	27	・半生麺成分分析：道立オホーツク圏地域食品加工技術センター（12 月）
	28	・乾麺成分分析：道立オホーツク圏地域食品加工技術センター（１月）

注）下線は、北海道中山間ふるさと水と土保全対策事業より対応

【活動状況写真】

平成 27 年度

先進地視察・意見交換会（10 月）

食育活動（湧別町立芭露小学校）（２月）

食育活動（湧別オホーツク園・湖水の杜）（３月）

平成 28 年度

のぼり・法被作成（６月）

先進地視察・意見交換会（７月）

道立オホーツク圏地域食品加工技術センターとの打合せ（１月）

食育活動（２月）

平成 29 年度

エプロン・三角巾・ポロシャツ作成（８月）

先進地視察・意見交換会（10 月）

食育活動作成（湧別町立芭露小学校）（２月）

パンフレット作成（３月）

（３）　活動への委員会の助言と反映状況

①　委員会からの主な助言内容

・　牛乳うどんは、一般のうどんと比較すると値段が高く（２食入り 320 円)、家庭で食べるうどんとしては選ばれないかもしれない。町内の飲食店のメニューの一つとしてうどんを出して、地域の人に店で食べてもらってはどうか。

・　牛乳うどんは、「うどん」と考えるから値段が高いと感じるのであって、新しい種類の麺類と考えてみてはどうか。

・　牛乳うどんのかりんとうの商品化について、会のメンバーだけで継続的に作り続けることは難しいので、レシピを作ってみることや町の菓子屋や地域おこし協力隊につくってもらうことなどを検討してみてはどうか。特に地域おこし協力隊と連携すると隊員の自活にも繋がるので地域の盛り上がりも期待できる。

・　牛乳うどんは他のうどんと比較して、カルシウムが多いとの成分分析結果が出ている。それを生かして骨の弱くなる高齢者や健康志向の女性などをターゲットにしてはどうか。

②　委員会の助言の反映及び効果

・　以前、町内のうどん屋と道の駅かみゆうべつ温泉のレストランで、牛乳うどん（乾麺）を扱ったことがあったが、調理に時間がかかるため現在は提供していない。半生麺は調理時間を短縮することができるが、賞味期間が短いため、飲食店での提供までは至っていない。

・　うどんだけではなく、パスタやサラダとしても調理可能なことから、現在のパッケージの在庫がなくなった時点で「牛乳めん」という名称に変更する予定である。

・　牛乳うどんを使った７つのレシピの一つとして、かりんとうをパンフレットに記載した。地域おこし協力隊とは最終年度の食育活動を一緒に行うなど連携して取り組む体制ができた。今後、牛乳うどんを使った新メニューの開発を取り組む予定である。

・　オホーツク食品加工技術センターの成分分析結果については、パンフレットに「一般の麺と比較してカルシウムが多く栄養価に優れた麺」と記載した。

　また、パッケージにも現在の在庫がなくなった段階で同様な記載を予定し、優位性をアピールする予定である。

（４）　目標の達成状況

活動計画に明記した目標（数値・定性）の達成状況を以下に示す。

目標（数値・定性）	目標の達成状況
１　ＰＲ事業 地域住民へマルシェ部会の取り組みを周知	・　各種イベント（（２）活動の推移（２頁）参照）に参加し、牛乳うどんのＰＲを行った。 ・　会の活動内容・牛乳うどんのレシピ集を記載したパンフレットを作成した。
２　研修事業 食育・加工について成果を上げている団体に学び、今後の活動方法を検討	・　興部町食を考える協議会（H27）、ＪＡ中札内村（H28）、（株）神門とブルーグラスファーム（H29）を訪問し、施設見学と意見交換を行った。
３　食育事業 地場農産物の加工品を用いた食育活動を実施	・　湧別町立芭露小学校の児童を対象に牛乳うどんづくりを行った。（H27、H28、H29） ・　介護老人福祉施設（湧別オホーツク園・湖水の杜）の入居者を対象に、加工品の説明と試食会を開催した。（H27）
４　新商品開発 現行商品の成分分析と新たな加工品の開発に向けた取組	・　道立オホーツク圏地域食品加工技術センターに半生麺（H27）と乾麺（H28）の成分分析を委託した。

２　湧別地区の活動の評価について

当該地区の活動を、① 活動の状況、② 活動への支援体制、③ ふる水事業の目的（趣旨）達成の可能性という３つの視点に基づき評価する。

①　活動の状況

本地区の主な活動内容は、事業実施の前年度に商品化した「牛乳うどん」を用いた食育活動、同製品のＰＲ活動及び成分分析と新たな加工品の開発であった。

食育活動については、特に芭露小学校の全児童を対象に３年間実施し、商品を開発した思いを語った後、実際に調理・試食を行い、地域の特性・風土の理解と地域への愛着を育むという効果があったといえよう。

ＰＲ活動については、直近では町内のイベントを中心に年７回実施しており、町民に対しては一定程度周知が図られたが、引き続き積極的な対応が必要であろう。

成分分析については、初年度に半生麺、２年度目に乾麺について実施し、いずれも一般の麺に対してカルシウムが多く含まれ、栄養価に優れていることが確認できたが、この結果を商品の販売に生かすことが今後の課題であろう。

また、新たな加工品の開発については、事業実施当初、ＪＡゆうべつ町のブランドとうもろこしである「流氷とうもろこし」の規格外品の活用を検討していたが、価格の高騰や収穫量の減少などにより規格外品の量が不足したことから検討を先送りした。

【参考】牛乳うどんの販売状況

	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９
半生麺（プレーン・かぼちゃ）、乾燥麺	4,926 袋	4,438 袋	3,380 袋
贈答用	66 セット	103 セット	38 セット

② 活動への支援体制

活動団体は農協女性部の部会であり、農協が会の活動を全面的に支援した。

サロマ湖 100 ㎞ウルトラマラソン前夜祭・湧別町産業まつり・成人式などイベントにおけるＰＲ活動については、行政・商工会の協力が得られた。

食育活動については、全校児童を対象にしたいという学校側の意向があり、現場での苦労が想定されたが、資料作成に当たって学校から協力を得ることができ、スムーズに取り組むことができた。また、最終年度には地域おこし協力隊の協力も得られた。

③ ふる水事業の目的（趣旨）の達成の可能性

地域の主要産品である牛乳に着目、町で初めての農畜産物の特産品として「牛乳うどん」を商品化し、さらに、小学校児童を対象とした食育活動に活用するなど地域資源を活用した地域活性化という面では高く評価できる。また、最終年度にレシピ集を記載したパンフレットを作成したことは、団体の活動のＰＲと商品の売上拡大を期待できる取組みとして評価できる。

一方、活動団体が農協女性部の部会であることから、会員が女性酪農家に限定され、会員の増加に結びつかず、活動内容が拡大されなかったのは残念であった。具体的には、ＰＲ活動・食育活動の規模の縮小や新商品開発の先送りである。このことは、活動意欲が消極的であったといえるが、本業である酪農業と両立し、無理のない形で現在の活動を継続していくことを重視したものであり、やむを得ない結果ともいえる。

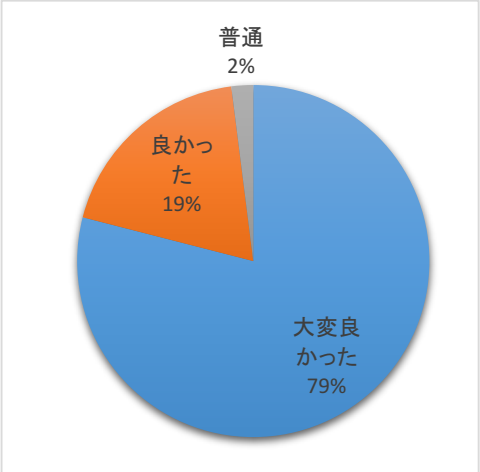
本事業終了後は、商工会や地域おこし協力隊との連携を更に深め、新メニューの開発や情報発信を推進し、地域住民に長く愛される商品に育て、その商品の売上から食育などの事業を継続実施していく運営により、目標である食を通じた地域の活性化が図られることを期待するものである。

研修事業に係るアンケート結果について

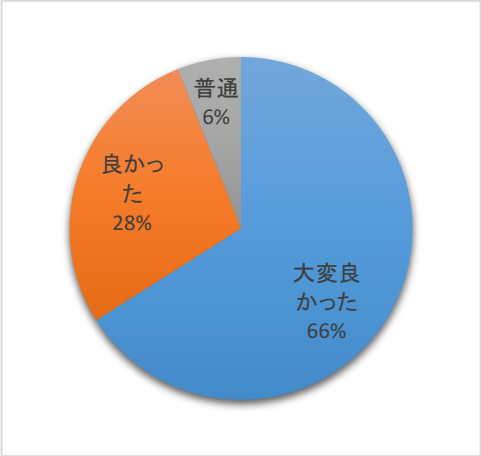
地域づくり研修会

日程：平成29年9月5日（火）　場所：札幌市

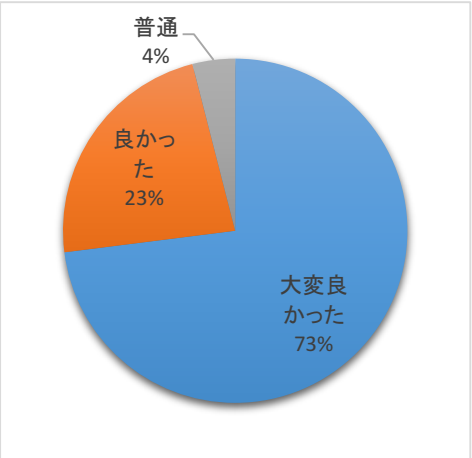
基調講演



パネルD



研修全体



主な意見

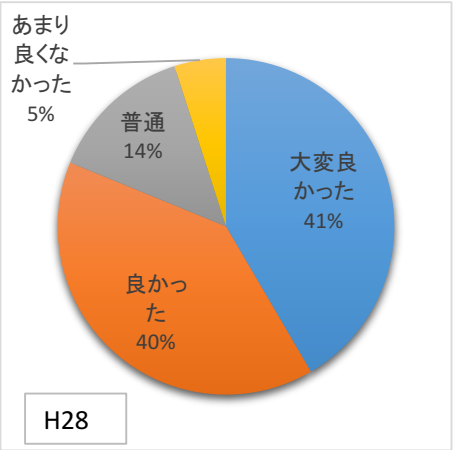
・パネルディスカッションが面白かったです。来年もあるといいと思います。
・ディスカッションは時間が少ないように感じました。パネラーの個性が出し切れなかったのかなと思いました。
・時間配分として、後半のパネルディスカッションを多くして欲しかったです。そしてもっと参加者とのやりとりを！
・道外に対しどうアプローチしていくのかを示す事例はないですか？マーケット拡大を目指す事例として知りたい。

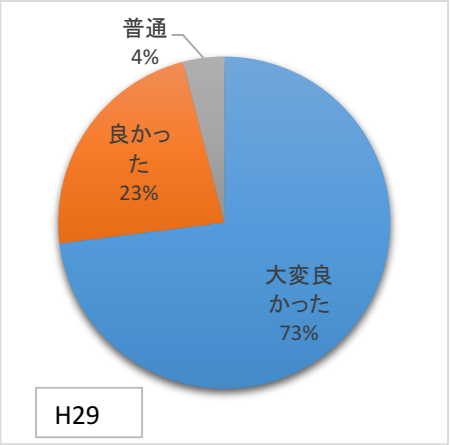
・プーワナットさんのSNSへの投稿の仕方が大変参考になった。簡単なようですごく工夫されているのだと知った。1次産業と観光業を繋ぐコーディネーターやネットワークの必要性を感じた。

・「人」を資源にすることが、大きな可能性を秘めていると感じた。そこに着目して動いてみたい。

・開催時期がもっと早く決定（年度初めに何月のどの週くらいかなど）した方が、一次産業の指導員は参加しやすいのではと思いました。

昨年度との比較（研修全体）





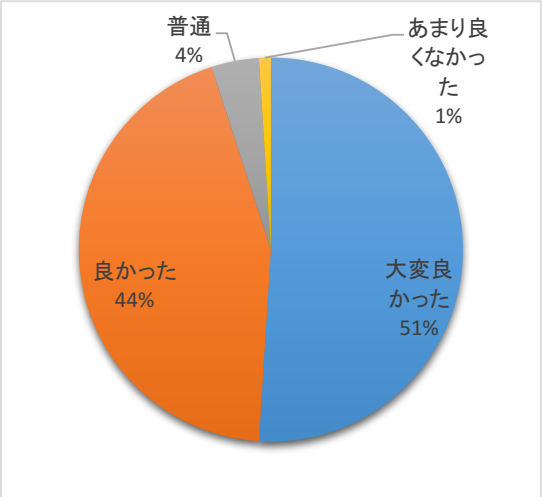
来年度に向けて

・講評だったパネルDを予定
・開催時期を早めに決定、通知

現地研修

日程：平成29年10月18（火）～19日（水）　場所：八雲町、江差町、厚沢部町

研修全体



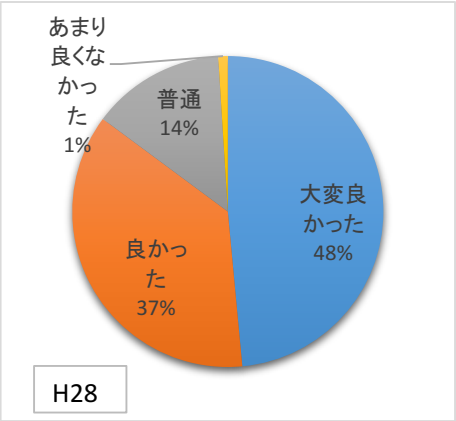
主な意見

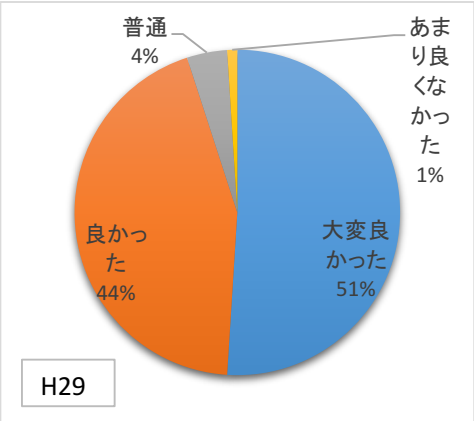
・もっと実践活動をしている関係者との意見交換する時間が必要ではないか。その為に研修、視察場所の検討もしてもらいたい。加工、販売に取り組んでいる場所の視察（単に話しを聞くだけで無く時間を割いた加工場の視察）

・今後、農村地域を持続的に発展させるには若い世代の活躍が不可欠だと思います。地域づくりや地域の活性化に熱心な若手（20～30代）の取組を取り上げてはどうでしょうか。

・現地研修の講師の方で都合のつく方は札幌の研修でも時間をつくって聞いてみるのもいいと思います。

昨年度との比較（研修全体）





来年度に向けて

・現場を見て、聞くだけではなくて意見交換などもできるようなスケジュール
・現場研修で学んだことを指導員会で意見交換するなどの形をとる

ブロック別ミーティング

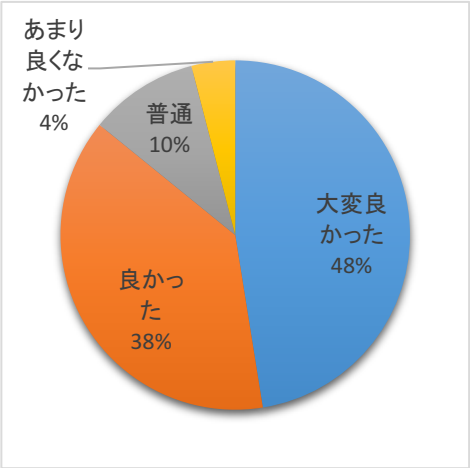
道東ブロックミーティング
日程：平成29年7月25日(火)～26日(水)
場所：別海町、厚岸町

道北ブロックミーティング
日程：平成29年8月1日（月）～2日（火）
場所：留萌市、小平町

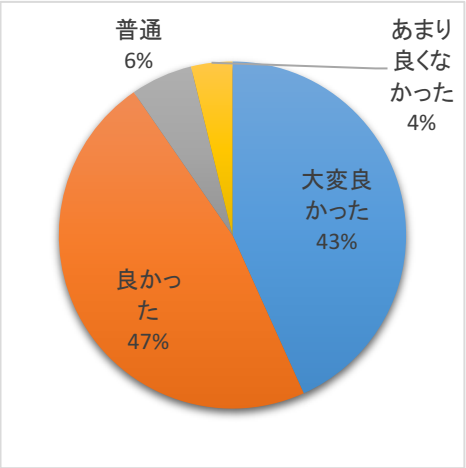
道央ブロックミーティング
日程：平成29年11月7日（火）～8日（水）
場所：日高町、平取町、浦河町

道南ブロックミーティング
日程：平成29年11月15日（水）～16日（木）
場所：北斗市、知内町

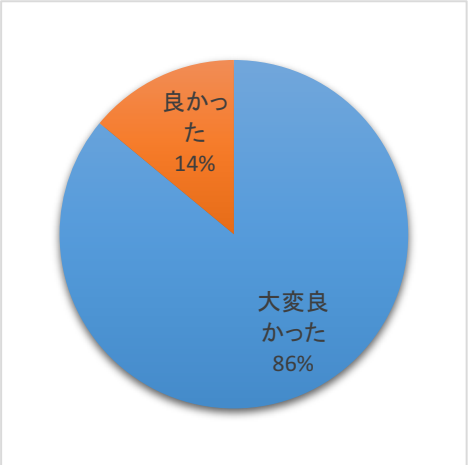
道東



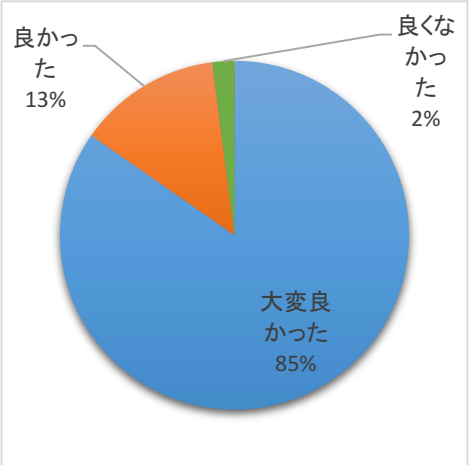
道北



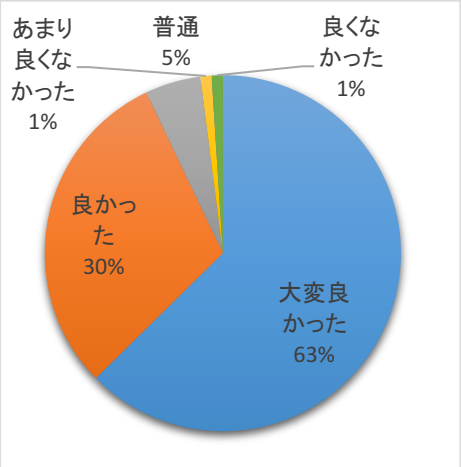
道央



道南



全体



主な意見

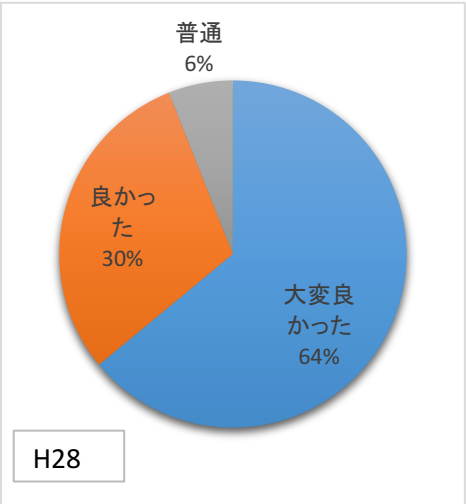
・日程の調整や対応が難しいかもしれませんが、実際の指導員の活動を直接見学・体験することができれば良いと思います。今回でいえば、水沼さんのハーブ畑、役場横のミニ農園を見学する時間があれば良いと思いました。
・酪農家の指導員さんでは研修等参加する際はヘルパーをたのまなければいけないので、早め（1～2ヶ月前）に日程を通知してほしい。

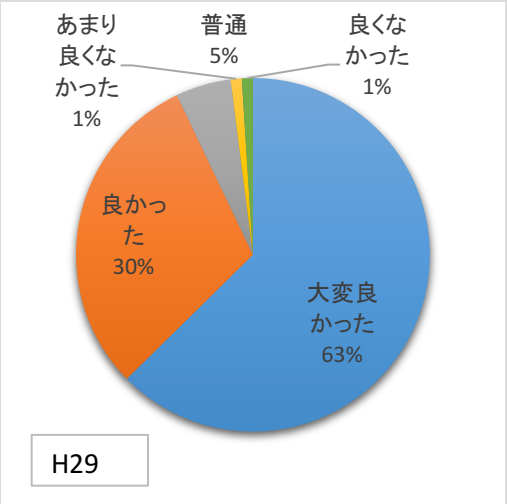
・BMは地域の近い人たちが集まるので話題も共通の事が多く、情報も交換しやすいので大変有意義と思っています。道東ブロックは指導員が増えているのですが、仕事柄なかなか出席者が揃えないことが残念に思います。現地を見るのには夏がいいので、この時期がいいのですが出席者のことを考えると時期を考え直す必要があるか？と多くの出席者で質の高い研修が出来る方法をみんなで考える必要があると思っています。指導員の発表をきいて、民間の考えかた、行政の関わり方等々数多くの事例を学んで自分の中で生かせるものを見つけていきたいので、研修の内容を幅広く考えていってほしいと思っています。
・道北ブロックについては参加人数・いつも同じ人が参加しているから今後日程等十分に協議する必要があると思われる。

・今後は、グループ討議で出された意見を実践していただき各取組の「その後」について報告いただく場を設けてみてはいかがでしょうか。例えば、来年のBMで水沼さん、高橋さんに現況報告いただくなど・・・

・各指導員のかかえている課題や悩みをもっと深く議論し、活動を前向きに進めるきっかけとしてほしい
・「食育」「食と観光」をテーマとした取組について来年は聞きたい

昨年度との比較（研修全体）



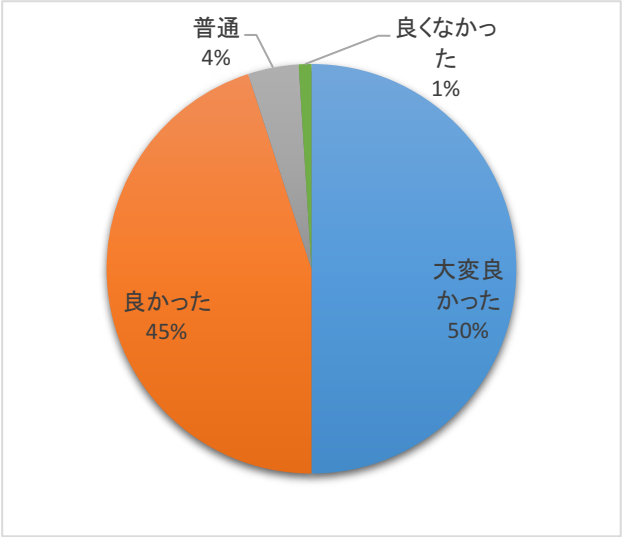


来年度に向けて

・「あまり良くなかった」「良くなかった」は意見交換・グループ討議についていたので、グループ討議の内容、時間について調整する必要がある。
・日程は最低でも1～2ヶ月前に通知する。
・取組の「その後」について、報告してもらう。（＋その悩みについて、意見交換など？）

指導員会
日程：平成30年1月23日（火） 場所：札幌市

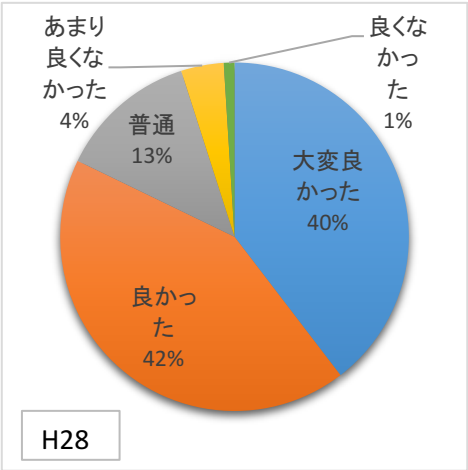
研修全体

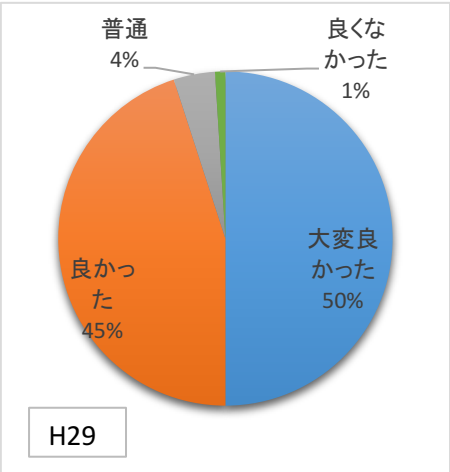


主な意見
・各ブロックでも意見交換の場をつくっても良いのでは？
・グループ分けが今回は面白かったと思います。討議内容は結論のないことが多いようです。悩みを打ち明け合うことでまたやる気が出るのでは･･･と思いました。

・指導員会のアンケートを記述式にすると指導員の方々が考える方法になるかなと思います。全国大会のアンケートは一枚の用紙に記述式でした。その中で何を･･･と思ったとき、何が一番印象に残ったか？そこから広がるもの等々。ただ、4択とか○×よりもっと中身の濃いアンケートになると思いました。

昨年度との比較（研修全体）





来年度に向けて

・各ブロックごとの意見交換の場を設けることを検討
・アンケートの様式を変更（記述部分を多くする、また、アンケート記載の時間をとる）